

無料版

12月号



毎月1日発行  
第140号 定価850円(税込み935円・送料別途)  
本社 東京都新宿区高田馬場3-23-3 ORビル6階  
☎03(3371)9340 FAX 03(3371)9596 www.u-car.co.jp  
本紙の無断転載・複製を禁じます  
購読・広告のお申し込みは  
☎03-3371-9340  
発行所 (株)ユーストカー (株)ユーストカードットコム

2024年

今年も熱かった...



# 振り返り

1年間

# 総まとめ special



## 今年も荒れました。来年は?

【5面・検査の匠】人気モデル『解体新書』アルファード (40系) (後編)  
【9面・そこが知りたい中古車輸出】ロシアの現地最新情報

ユーストカーNEWSの12月号と言えば、例年恒例の一年の振り返りだ。今回は2024年の振り返りとして、世の中で何が起きたか、自動車業界で何が起きたか、中古車輸出がどうだったか、そして、中古車相場がどうだったかについて、全体を俯瞰できるように組み立てた。

年表に様々な出来事のほか、中古車AA平均落札価格と中古車相場に大きな影響を与える新車販売台数の3年分のグラフも掲載した。世の中の出来事、自動車業界の出来事と中古車相場を重ね合わせ、一年を振り返ってみてほしい。「そんなこともあったな……」と、忘れていたことが多いことに気づくだろう。「売った買った」「飛んだ跳ねた」と、日々の慌ただしい商売に振り回されてしまった方も多いのではないかと。

今号をしっかり読み、様々な出来事の絡みと中古車相場の「流れ」を感じてほしい。また、各自の商売の一年も重ねてみるといいだろう。それにより、来年に向けて、どのように取り組んでいくかが見えてくるはずだ。

今号の記事は、輸出と相場に分けて掲載していく。白バックが輸出、オレンジバックが相場に関する記事となっているので、ご覧いただきたい。

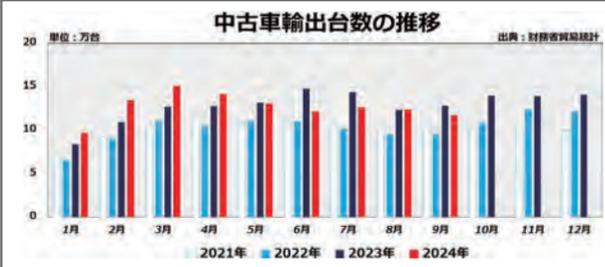
2面へつづく

中古車仕入れは **Web i-Auc**

年間500万台が出品される全国112のオークション会場と、常時10万台が掲載される共有在庫から仕入れができます!

業界最多の82会場とリアル接続!

オークションの下見・商談は、お電話で受付OK!



今年(2024年)の中古車輸出のトピックスといえば、高水準の輸出台数、ロシア向け迂回輸出の定着、そしてコンテナ海上運賃の高騰だろう。

財務省の貿易統計で今年通年の輸出台数が判明するのは25年1月末だが、現時点で判明している9月までの実績は前年同期比1・6%増の114万1923台。過去最多だった昨年の154万

コンテナ運賃高騰がなければ  
最多記録更新?  
2024年中古車輸出

今年(2024年)の中古車輸出のトピックスといえば、高水準の輸出台数、ロシア向け迂回輸出の定着、そしてコンテナ海上運賃の高騰だろう。

財務省の貿易統計で今年通年の輸出台数が判明するのは25年1月末だが、現時点で判明している9月までの実績は前年同期比1・6%増の114万1923台。過去最多だった昨年の154万

2024

日本初の月面着陸成功、石破茂内閣が発足、物流の2024年問題、トランプ前大統領が再選

藤井七冠が史上最年少で永世棋聖、20年振りに新紙幣発行、大谷選手が史上初の50-50

今年一年振り返り

1年間総まとめ  
スペシャル

24年1月号ユーストカーNEWSの表紙は「24年 こうなる、中古車相場 ●高●低」

車相場 ●高●低

迎える今、その記事の答え合わせができる時が来たことになる。我々は「予想をして終わり」ではなく、しっかりと検証を行ない、読者の厳しい目にはさらされていこうと思う。

また、本年の予測検証を行なうとともに、24年において本紙がどのような相場解説をしてきたのかを今一度、箇条書きの形で掲載していく。1年の相場の流れをおさらいするには、良い方法だと思ふ。しっかりと思い出して、勉強していただきたい。そして、25年の相場の流れを掴めるようになり、しっかりと来年も儲けていただきたいと思ふ。なぜなら、25年も中古車相場は荒れる1年になるから。ほぼ確定しているから。勉強無しに「利益無し」といっても過言ではない。

ユーストカーNEWSでは、来年も相場を深く掘り下げていく。今年の

1年は、言うまでもなく高騰張り付き相場に振り回された1年だった。そんな1年をしっかりと振り返り、来年の流れを読み取ることが大切だ。

1月号の「24年 こうなる、中古車相場 ●高●低」24年の中古車相場の予測を検証

「24年 こうなる、中古車相場 ●高●低」と題して、24年の中古車相場を予測した。●高●低の答えは「低年式が高く、高年式は徐々に下落」ということだったが、結果は「全部高い」となった。当初は4つの要素から相場予測を行った。

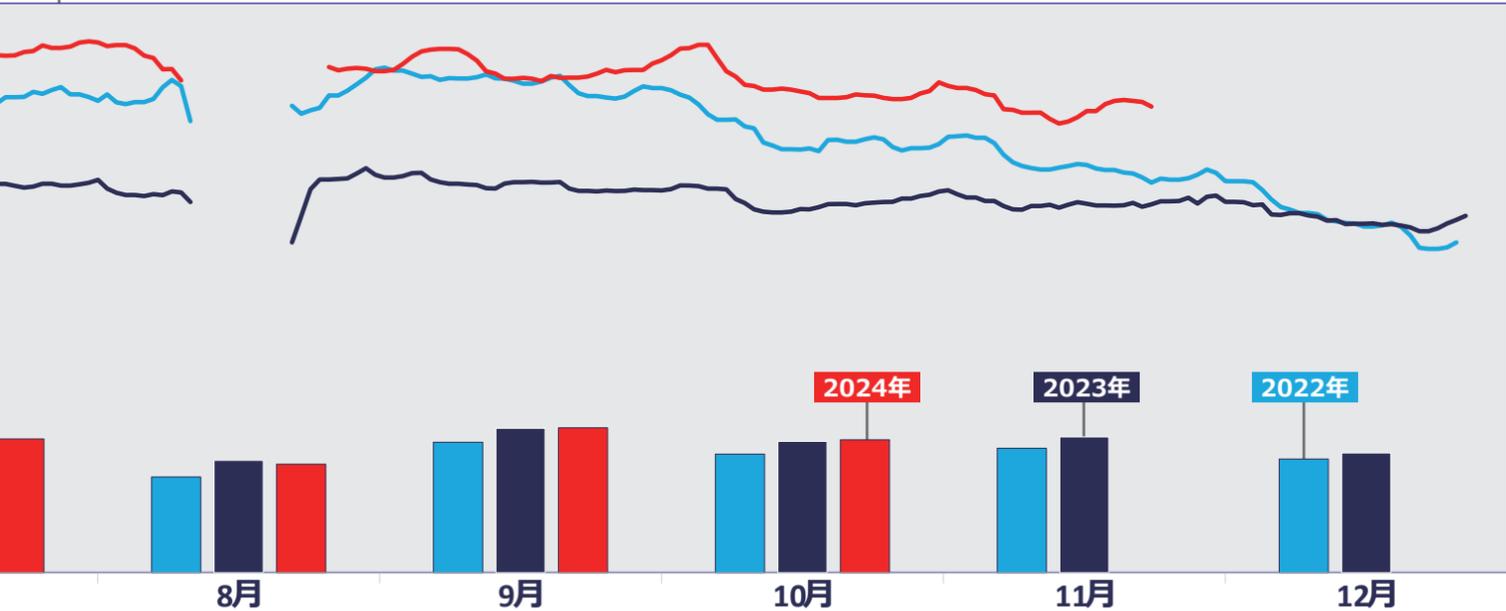
①海外需要

②為替相場

③新車供給

④船舶事情

の4つのカテゴリだ。我々は、予測を外したのだろうか。いや、外したと言いつつ、余りにも自分たちがかわいそうだ(笑)。そう言うには理由がある。今号で最も伝えたい部分だから、しっかりと聞いてほしい



7月には新型CR-V e:PHEVが登場したほか、ノートオーラNISMOに4WDモデルが追加。9月にはフィアット新型600e、新型スペーシアギア、新型N-BOX JOYが登場、シビックRSが追加となった。10月には、新型CX-80、新型フロンクスが誕生した。

2024年は、海外でフルモデルチェンジした輸入車が続々と日本に導入された年でもあった。また、BYDなど日本国内でのシェア拡大を狙った海外メーカーの動向も印象的であった。(自動車ジャーナリスト・吉川賢一)

8月	9月	10月	11月	12月
5日 パリ五輪で日本が過去最多のメダル数とメダル総数獲得 バンクランテュで政変	10日 フィアット 600e	1日 石破茂内閣が発足	5日 米大統領選でトランプ氏が勝利 CAA東京が6レーンに移行	
11日 金メダル数とメダル総数獲得 バンクランテュで政変	19日 ドジャースの大谷翔平選手が大リーグ史上初の50-50達成	10日 USS東京が国内初の16レーン稼働		
	20日 スズキ スペーシアギア	16日 マツダ CX-80		
	26日 ホンダ N-BOX JOY	17日 BMW 1シリーズ		
		30日 マツダ フレアワゴンタフスタイル		





ロシア向け輸出は昨年8月の乗用車輸出規制によって迂回輸出が定着した(ウラジオストク港に陸揚げされた日本の中古車)

迂回輸出については本紙11月号をご覧いただき、23年8月の日本の乗用車輸出規制(排気量1900cc以上の内燃機関車と電動車の輸出禁止)によってロシア向けは減少。その後、輸出可能な区分はそのままに、禁止されたものは第三国を経由して行っていると考えられる。経路と目されているのがアラブ首長国連邦(UAE)、モンゴル、キプロス、ジョージア、韓国で、このほか一時的だが中国も経由地になった模様だ。

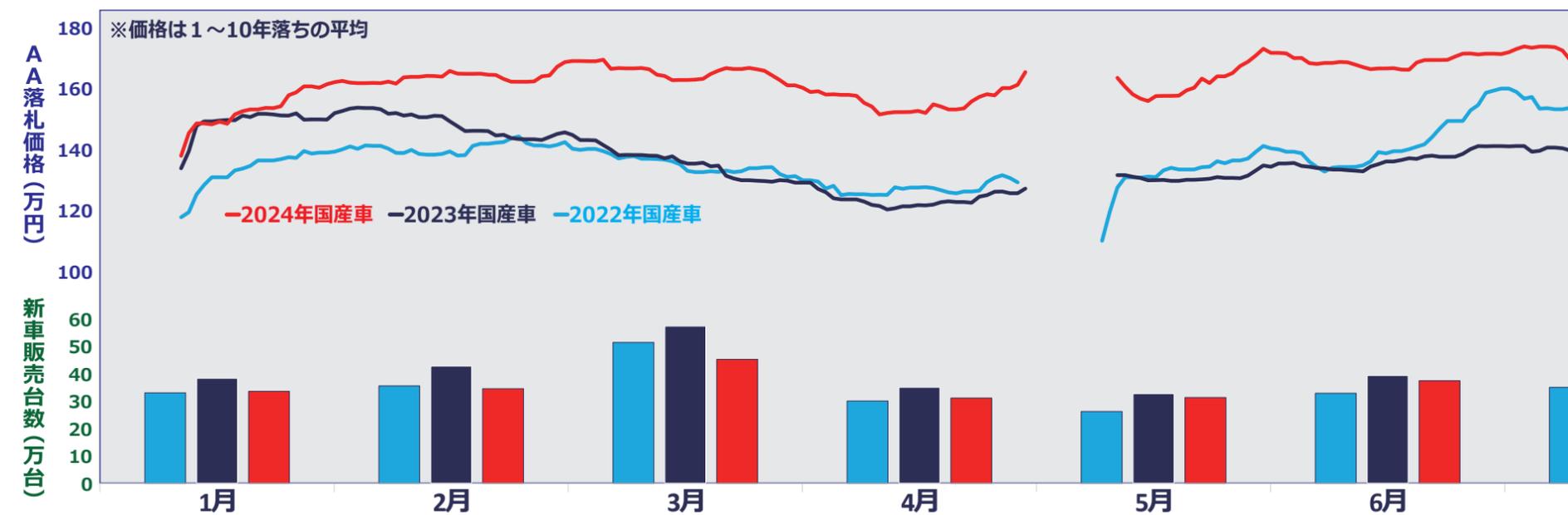
今年、コンテナの海上運賃が高騰したのは、昨年秋に発生した2つの運河問題(イスラム系過激派組織・フシ派による船舶攻撃を避けるためのスエズ運河迂回と、水不足によるパナマ運河の通行規制)による航行日数の増加、そして中国から米国や欧州へ向けた輸出生産による船腹不足が原因だった。

相場の予測は「わからぬ」。なぜならば、様々な要因が絡み合っており、相場は形成される。とにかく需給が一番大切で、その需給は複雑に様々な要因で決まる。例えば、為替が中古車輸出相場に影響を与えているのは明白だ。それでは為替相場の先読みができるのか?...

「何が起きたら相場が下落するのか」「それ(下落要因)はどういうとき起きるのか」というのが正しい質問だと思ふ。言い換えて本質をお伝えすると、「答えを聞く質問」ではなく、「答えを導き出す考え方を聞く質問」をする、ということだ。

このように、相場の大きな流れと考え方について、お伝えしてきたはずだ。実際に、暴落することはないと書いた部分については、その通りになっているのはお分かりだろうか。大きな流れはある程度読み解くことができる。しかし、細かい流れはその時の4つの要因(それ以外もあるが)の動きで都度、変化が起きる。であるから、

●●であればこうなる。▲▲が起きたらこうなる。というように、何がどうなったら、どう変化するということを理解しておけば、常に相場が読めるわけだ。取材中に「いつまで高騰続けるのか」「いつから下落するのか」などの質問を多く受けるが、それは質問方法が間違っていると聞きたい。



売れ筋国産車のモデルチェンジと新型輸入車が多く登場した2024年

2023年末は、11月の新型クラウン(セダン)をはじめ、レクサス新型LBX、新型スペーシア、ランドクルーザー70、新型レクサスRZ300e、12月には新型スイフト、新型クラウン(スポーツ)PHEV、新型WRV、改良型ミニキャブEVと、新型車が立て続けに登場した。年が明けた今年1月は、メルセデスベンツEクラスとクリッパーEV、2月にはBMW5シリーズツワゴン、トライトン、3月には新型アコード、新型MINIクーペ、新型カントリーマン(BEV)、新型アリアNISMOが登場した。4月には新型ランドクルーザー250が発売となり、一時は中古車オークションで1500万円超の個体も出るなど、大きな反響があった。5月にはレクサス新型LM6座仕様車、JEEP新型ラングラー、6月には新型N-VAN e、BYD SEAL、新型EQB、新型フリードがデビューした。

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
1日: 能登半島地震発生、石川で震度7を記録 2日: 日産 クリッパーEV② 12日: 探査機SLIM-JAXA 20日: 日産 クリッパーEV② 30日: 日本初の月面着陸成功	7日: BMW 5シリーズツワゴン③ 15日: 三菱 トライトン④ 29日: プジョー 508⑤	1日: ミニ カントリーマン電気自動車⑥ 7日: トヨタ アコード⑧ 8日: トヨタ ユーゼックがTAA宮城サテライト開設 10日: 米アカデミー賞にジブリアニメ、ゴジラ-1.0 18日: メルセデスベンツ CLEクーペ⑨ 米アカデミー賞にジブリアニメ、ゴジラ-1.0	1日: 物流の2024年問題 2日: AMG GTクーペ⑩ 8日: ライドシェア解禁、京都で出発式 11日: トヨタ ランドクルーザー250⑫ 18日: メルセデスベンツ EQA⑪	1日: 伊藤忠商事ら3社がビッグモーター買収し新会社設立 10日: ジープ ラングラー⑬ 31日: 自動車メーカー5社で型式認定試験不正	2日: 菅生優花が日本国籍登録選手として初の全米女子オープン制覇 5日: ヒョンデ アイオニック5N⑭ 6日: ミニ エースマン⑮ 13日: ホンダ N-VANe⑯ 25日: メルセデスベンツ EQB⑰ 27日: ホンダ フリード⑱	1日: 史上最年少で永世棋聖 3日: CAA中部が10レーンに移行 18日: ホンダ CR-V e-FCEV⑳ 26日: 第1回AA検査員技能コンテスト 28日: 日産 キャラバンマイルム㉑ 31日: JU中部が7ブロック初のメルセデスベンツ Gクラス㉒



3面のつづき

ユーザーNEWS 各号の内容と、3カ月毎の振り返りと総括をお伝えしていく。24面の相場グラフを同時に見ながら振り返り&考察読み込んでいただきたい。◆気を付けていただきたいのは、前月末に締め切り翌月の●月号としてお届けしているの、今回の記載内容は、記事としては後追いついてきている(1カ月程度)ことを頭の隅に入れておいていただきたい。◆

1-3月

1月号 24年の相場見通し 低年式は高く高年式は徐々に下落の可能性、暴落はないと予測した。



2月号・3月号 中古車輸出座談会

陸送最王手・ゼロの北村社長をお迎えして座談会。「2024年問題」について語っていただいた。陸送不足の注意喚起を行なった内容が、皆様においてはどうか。今年陸送問題で商売が滞っている方も多く聞くが。



1-3月振り返り&考察

24面のグラフの1月のA A落札平均相場の始点を見て欲しい。

有料版では、モザイクの部分を全てお読み頂く事ができます。お申込みは 電話03 (3371) 9340まで!



4-6月

4月号 中古車大学入式 業界図、5年前と比較してみた 19年に掲載した業界図

を5年振りに更新。5年前から現在までの激動の業界を数字と比較し、その流れをお伝えした。免許人口がピークをつけて減少していく中で、乗り換えの「回転率」でカバーしていくことを提案。

24面では、相場がいつ下がるのかのチェックポイントについて解説した。22年の夏の高騰相場は下落したが、今年の高騰相場は急落は来ないとお伝えした。トヨタの受注残年内解消宣言について、多分無理だろうと予測(その通りになった)。今年の中古車相場には、下落は期待しないほうが良い、下落時期の予測は、トヨタの受注残解消(登録納車の進み具合)を参考にすべき、という内容だった。



5月号 200社に聞きました!! 3月の小売りみんなどうだった?

200社の中販店にアンケートを敢行。23年3月との比較は、販売台数が増えたが66・7%、減ったが29・2%。儲けについては、少し儲かったが33・3%、少し悪かったが27・8%という結果に。仕入れに関しては、高くても仕入れていたが66・7%という結果だった。このことから、高く仕入れても新車の代替え需要も含め、高く売れる時期であったことがわかる(内容は3月の結果として)。

6月号 アルファード相場大解剖

40系から20系まで、アルファードの相場についてグラフを用いて深く解説した。



4-6月振り返り&考察

24面のグラフでいうと、ゴールデンウィークでグラフが

7-9月

7月号 中古車相場 暑再び到来中...いつまで?

考察として「22年の高騰相場との違い」を「22年の高騰のように頂上相場ではなく『空に浮かぶ雲』のような相場」と解説。また、相場自体の地殻変動が起きていて、今までの水準と次元が変わった水準に変化してしまっているとお伝えした。



8月号 大解剖 中古車輸出 ロシア向け現状&熱波相場実況中継

旺盛なロシアの中古車需要と、様々なルートで

ロシアに輸入されていることを説明。自ずと相場も上に引き上げられることになった。この頃本紙では「熱波相場」という表現を用いている。4面24面では「熱波相場実況中継 熱中症注意報発令中」と題してお伝えした。5年落ちでも新車並みの価格で苦戦を強いられているだろうことは想像できる。そんな状況が続いていて「熱いなか耐えていて倒れないか?」という心配からである(失礼!)

9月号 中古車輸出コンテナ不足でブレイクか?! & 相場に秋は来るのか? コンテナ不足による、コンテナ運賃高騰について解説。振り返ると、コンテナ価格はジェットコースターのような価格変動の1年だった。パングラデシユ政変による、現地陸運局襲撃後の写真などでパングラデシユの現状を報告した。4面では小売店にヒアリングした結果を、利幅が取れず、非常に厳しいという内容であった。



10-11月

10月号 急伸? シンガポール解説 & 相場残暑が続く理由

シンガポールの、日本からの中古車輸入台数が急伸しているバックボーンを解説した。また、シ



日本最大級の中古車流通ネットワークサービス

中古車の仕入・売却・小売販売のことなら



新規会員募集中



掲載台数年間1,200万台 80,000会員様が利用中

入会金 月会費 無料

AS NET サービス紹介

仕入れ

17万台以上出品中 全国147会場と提携! ■共有在庫を業販価格で購入(ワンプライス) ■全国のオークションからセリで落札できる!

売却

ASNETが下取り車・在庫車の売却ルートに! ■共有在庫へ業販価格で出品(ワンプライス) ■オークションの会員でなくてもオークションに出品できる!

小売サポート

お客様との小売商談ツール! ■店頭在庫がなくても車の販売ができる! ■お客様とのリモート商談がアプリで可能に!



株式会社 オートサーバー

お問い合わせ・資料請求は 03-6855-5500

入会金・月会費 無料会員募集中 詳しくはこちら https://www.autoserver.co.jp





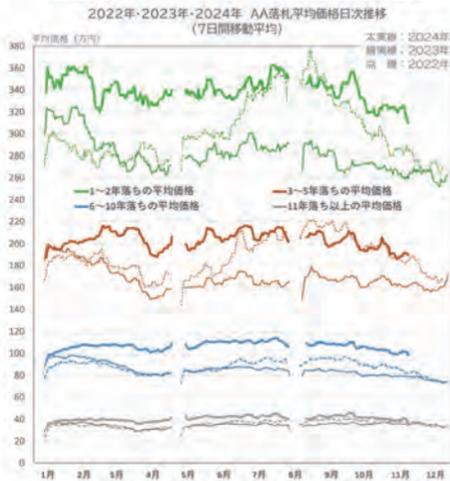
**11月号中古車相場考察**  
**「決して安くはない」**  
 ほとんどの人が、狭いカテゴリーの短期目線で相場が下がったと感じていることに、注意喚起のため「相場は決して安くはない」というサブタイトル



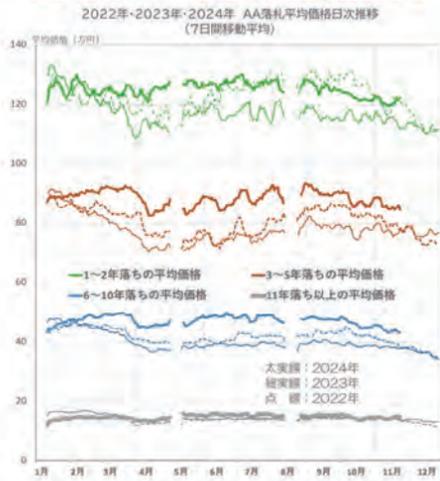
**24面必殺相場人**  
 部の車種に高騰疲れが現れ、行き過ぎたプレミア価格が剥がれ始めたことをお伝えした。この動きは、年末を迎えた現在も進行中である。ただし、この時点で軽自動車は高騰し続けていることもお伝えした。

**24面のつづき**  
 ンガボールの新車扱い中古車の現地価格をアルファードで分析、現地においての並行輸入車(日本からの新古車)が、100万円以上も安いことも詳しく説明した。

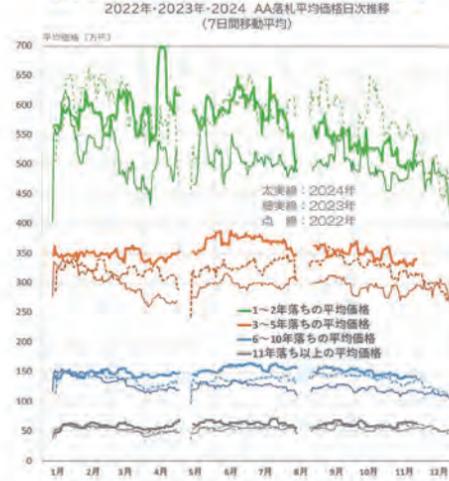
**国産車 AA落札平均価格 日次推移**



**軽自動車 AA落札平均価格 日次推移**

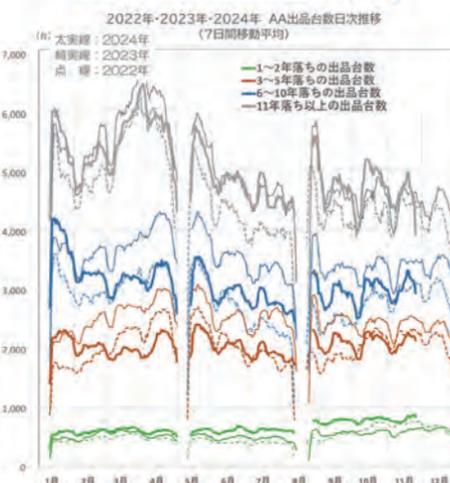


**輸入車 AA落札平均価格 日次推移**



を付けてお伝えした。10月号(9月以降に起きた内容)で取り上げた、一部のプレミア価格が剥がれ続けていることで、「相場が下がった」と全体を感じてはいけないとお伝えした。現行クラウンや、ノアのガソリン・HVなどを例に、下がっているものと、下がっていないもの、下がっているものがあることを紹介。一緒に相場を判断しては、仕入れが後手に回るので注意をして欲しいとお伝えした。

**国産車 AA出品台数 日次推移**



有料版では、モザイクの部分をお読み頂く事ができます。  
 お申込みは 電話03(3371)9340まで!



10-11月振り返り&考察  
 ここについては、



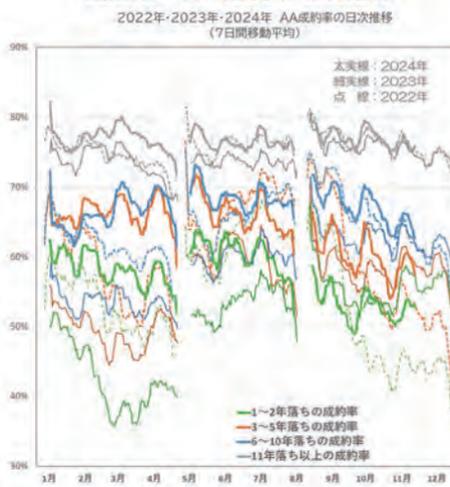
**24年一年の総括と来年の相場について**  
 とにかく、今まで起きたことが無いレベルの高騰相場張り付きとなった。前半までは、新車の代替需要で相場は高くても小売りはそこそこ順調だったが、夏前後から高騰相場疲れがはじめている。新車の代替需要が落ち着き、価格優位性を求めるユーザーがプラスにシビアになったのも、この辺りからである。途中、在庫車のAA処分分利益確保をして、その後の手当てに苦労した

**25年について**  
 25年も中古車相場の急落はないと言える。なぜならば、先ほどの高騰要因の逆が起きなければ、相場は下がらないからだ。暴落はない、ということをお伝えしてきたのは、暴落が起きる時は天変地異以外では、一回の高騰要因のすべてが一気に解決した時になるからだ。世界紛争、トヨタ

結果展示場から車がなくなる現象も起きた。異常なまでのプレミア価格の高年式車や新古車も、年後半からプレミアが剥がれ落ち始め、市場では「相場が安くなった」と、全体相場と一緒に下がっている方もいるが、円安を伴った旺盛な海外需要が底堅い相場を実現している。

**最後に**  
 相場の振り返りをお伝えしたが、これはすべて「需給」を映している。高騰相場継続の可能性が大きい25年だからこそ、ここにしかないサービスを提供すること、「つまりここまでやってくれるのは、こしかないうね」というように、供給元としてお客様に「こしかな」と思わせる戦略が必要だと思ふ。特徴あるサービスを実行しつつ、相場の「流れ」をしつかり勉強していくことが、25年を生き抜くことになるだろう。ぜひ、本紙とユーストカードットコムのWeb製品で勉強をして欲しい。

**国産車 AA成約率 日次推移**



# Excellence for you

大好評!! 過去1年以上オークション出品歴のない車両が多数出品! 2つのEX、魅力の成約率!!

## 売切りEX & トレタマEX

株式会社JU岐阜羽島オートオークション

〒501-6330 岐阜県羽島市堀津町2211番地 tel 058-398-5100(代) fax 058-398-5109

http://www.i-gforce.co.jp

